

いまぼく
『今僕にできること』椎田中学校 1年(当時) そくぎ れい 則座 伶

新聞しんぶんを読んでいたら、『赤あかちゃん、ダメしゅじゆつ手術つまされた妻きじ』というタイトルの記事みを見つけた。どう
いう意味いだろう？と疑問ぎもんに思って、その記事きじを読んでみた。それは、「旧きゆう優生ゆうせい保護ほ法ごほう』という法律ほりつ
に関する記事かんだった。「旧き優生じ保護きゆうゆうせい法ほ」とは、戦後せんご一九四八年ねんから一九九六年ねんの間に施行あいだされ
ていた、障害しょうがいを持っている人もに不妊手術ふにんしゅじゆつを強いる法律しだ。この法律ほりつでは、本人ほりつの同意ほんにんがなくて
も不妊手術ふにんしゅじゆつをすることができた。

二十世紀にじゅうせいの初めはじ、イギリスやアメリカなどの近代化きんだいかが進む国々すすを中心に、遺伝的くにくにに「劣悪ちゆうしん」な
人間いんでんを減らし「優秀れつあく」な人間にんげんを増やす優生学きんたいを採り入れた政策かが進められた。軍国主義すずを強め
ていた日本ぐんこくしゆぎもこの思想つよを採り入れて、「不良にほんな子孫しその出生しそを防止しゅつしやうすること」を目的ぼくに、一九四〇
年ねんに「国民優生法こくみんゆうせいほう」を制定せいし、精神病者せいしんびやうしやや身体疾患しんたいしっかんしやなどの障害しょうがいを持っている人もへの不妊手術ふにんしゅじゆつ
を促す法律うながを作った。

戦前せんぜんにできた国民優生法こくみんゆうせいほうは、なぜ戦後せんご制定せいされた「旧優生保護法きゆうゆうせいほう」に引き継がれたのだろうか。
それは、政府せいふの人口対策じんこうたいさくが背景はいけいにあったのではないかと記事きじには書かれていた。戦後せんご、復員兵ふくいんへい
や引き上げ者ひで急増あする人口しやによって起こった食糧難きゆうぞうや住宅難じんこうが深刻化おしたため、政府せいふは人
口こうを抑制よくせいする政策せいさくを行う必要おこながあった。一方で、同時に、国民いっぽうの「質どうじ」も高めようとした。そこで、
この優生政策ゆうせいせいさくが推進すいしんされたのである。結局けっきよく、軍国主義ぐんこくしゆぎだった時代じだいよりも戦後の民主主義せんごの時代みんしゅしゆぎ
になってからのほうが、この優生思想ゆうせいしそがより広がることになり、結果的けっかてきに、約二万五千件やくにまんごせんけんの不妊手術ふにんしゅ
が行われることになってしまった。この「旧優生保護法きゆうゆうせいほう」というのは、「障害しょうがいがある人は生まれ
てくるな」という思想しそが、「法律ほりつ」で認められていたということになる。そう考えると、とても悲しい
気持ちきもちになった。

この記事きじでは、実際にこの「旧優生保護法きゆうゆうせいほう」の被害ひがいを受けた、ともに耳の聞こえない夫婦うのことが
挙げられていた。夫婦あに説明せつめいもないまま、親同士おやどうしが話し合い、妻はなは、中絶手術ちゆうぜつしゅじゆつを受けさせられ、
さらに、不妊処置ふにんしよちまで行われていた。

僕は、この記事ぼくを読んで、とても衝撃きじを受けた。なぜかという、障害しょうがいを持っているということだ
けで、本人ほんにんの許可きよかも得ず、勝手に赤ちゃんえを産めないようにしていたからだ。調べてみると、不
妊手術ふにんしゅじゆつをすると、基本的には、永久的きほんてきに赤ちゃんえいきゆうてきが産めなくなるそうだ。そんな取り返しあかのつか
ないことを本人ほんにんの同意どういなしに、勝手にやるなんてひどいことをするなおもと思った。

今はもうこの法律いまは改正ほりつされたが、障害しょうがいを持っている人もへの差別さべつがなくなったわけではない。

たとえば、二〇一六年に相模原市で障害者殺傷事件が起こった。この事件では、犯人が、夜中に障害を持っている人の施設に侵入し、十九人を殺害、二十六人に重軽傷を負わせた。この事件の犯人は、「障害者は不幸を作る。」と述べたそうだ。僕はこれを聞いて「信じられない！」と思った。この犯人は、障害を持っている人の人権を否定している。しかし、SNS では、共感の声も多かったそうだ。このように、法律が改正されても。未だに障害を持っている人達に対する差別はなくなっていない。この事件もほんの一握りのことであり、他にも、実際に障害を持っている人に対する差別などはまだまだたくさんあって、それで苦しい思いをしている人もたくさんいると思う。

このような現状の中で、僕にできることが何かあるだろうか。中学生の僕には、自分だけで社会全体を変えることはまずできないと思う。でも、僕はまず、世の中にどんな人がいて、どんなことが起きているか、ということに関心を持つことが大事だと思う。例えば、新聞やニュースなどをもっとみるようにして、世の中の出来事をもっと知ること。さらに、実際にいろいろな人に会って、話して。関わってみること。それが、今の、そしてこれからの僕にできることなのではないかと思う。今すぐ障害を持っている人達などへの差別がなくせるわけではないけれど。こうやって関心を持つことが、差別をなくす第一歩になると思う。関心を持てば、知ることができる。知れば、今まで気づかなかった差別に気づくことができる。気づけば、自分の行動を変えたり、声を上げたりすることができる。そうしていくことで、差別のない世の中を創ることができると思う。